

## IV 溪流生態系の再生

### <主要施策の取組状況>

#### 1 溪流生態系の調査モニタリングと保全・再生手法の検討

##### ① **FS** 溪流生態系の調査モニタリングと保全・再生手法の検討

- ・ 溪流生態系の保全・再生を踏まえて、溪畔林整備の効果検証のため、整備実施箇所  
で植生等のモニタリング及び総合解析を実施し、この結果から得られた知見をもとに、  
森林整備の設計担当者向けとして、森林のタイプ毎に配慮すべき事項など初期段階の  
整備技術をまとめた「溪畔林整備の手引き(平成29年3月策定)」を作成した。

##### ② **FS** 魚類等による溪流環境の評価手法の検討

- ・ 溪流環境調査として、県有林内で溪畔林整備を行った河川で、魚類採捕調査、胃内  
内容物の分析による食性調査、底生生物調査、流下生物調査、落下生物調査、付着藻類  
調査、環境測定(水質、流速、河床構成、河川上空の開空度)を継続し、溪畔林整備  
の効果検証を含めた溪流環境の評価手法の検討を行った。また、平成28年度は流下  
生物の日内変化※についても調査を行った。

※ 日内変化 1日における時間による変化

##### ③ **FS** 淡水魚類のモニタリングと保全方策の検討 (VI-1-④)

- ・ 相模川水系1支流および酒匂川水系3支流で、丹沢在来のヤマメの採捕調査を行っ  
た
- ・ この結果、相模川水系で採捕したヤマメは僅かだった。一方、酒匂川水系のA沢で  
は70尾、B沢では70尾、C沢では35尾のヤマメを採捕し、外部形態の分析を行うと  
ともに、一部の支流で遺伝子解析を行った。

#### 2 溪流生態系の保全・再生事業の実施

##### ④ ダム湖堆砂抑制のための上流における土砂流入防止対策

- ・ 治山工事(6箇所)を実施、ダム湖等への土砂流出の防止を図った。

##### ⑤ 溪流への土壌流入防止対策 (I-3-⑥、V-1-②)

- ・ 林床植生衰退地(相模原市緑区青根:神ノ川熊笹ノ峰線)において植生保護柵を主な  
工種とする土壌保全工を実施し、土壌流出の防止を図った。[H28実績:10.62ha]

##### ⑥ **重点** 溪畔林の整備

- ・ 溪畔林整備として、仲ノ沢で植生保護柵、丸太筋工等、大滝沢で丸太筋工等を実施  
し、土壌保全を図った。[H28実績:植生保護柵320m、丸太筋工60m(仲ノ沢)丸太  
筋工等26m(大滝沢)]

○ダム湖堆砂抑制等のための土砂流入防止対策等実施状況(H28)

砂防工事	治山工事
なし	6箇所

○溪畔林整備事業実施状況（H28・仲ノ沢及び大滝沢）

本数調整伐等	植生保護柵設置	丸太筋工等土壌保全工
0.0ha	320m	86 m

○溪畔林整備の手引き



○溪畔林整備で設置した植生保護柵  
[山北町玄倉地内 仲ノ沢]



○溪畔林整備で設置した丸太柵  
[山北町玄倉地内 大滝沢]



○溪流環境調査（底生生物調査）の様子



○事業実施位置図（位置情報のある事業のみ掲載）

